

令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3年	学校	216	57	55	4.9	6.8
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	497
大阪市	489
全国	503

※IBTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

同じくのさし（民度）で比較することができます

この構造を詳しく、其なる句型がつづり成るる試験。前回の和末を、向じてのこし(度)で比較するることになります。
SBTフコアとPBTに其づいて各設問の正誤パターンのはうから学力を推定! 500を其準にした得点で表すのです。

2. 由学生チャレンジテスト

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年	生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】 (スコア)	聞くこと 【リスニング】 (スコア)	書くこと 【ライティング】 (スコア)	話すこと 【スピーキング】 (スコア)
実施月日					
3 年	学校	204	146.7	138.2	180.0
10月22日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4
					98.4

4 全國體力・運動能力・運動習慣等調查

平成29年度力・運動能力、運動習慣守調査											
学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトルラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
	225	(kg)									
2年 男子	学校	25.45	27.23	40.12	55.35	69.09		8.24	194.28	17.88	39.06
	大阪市	28.65	26.88	43.47	51.81	80.13		8.06	195.07	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	21.73	23.42	44.63	49.25	48.43		9.35	164.61	10.79	45.42
	大阪市	23.13	22.68	46.31	46.59	53.05		9.03	166.78	12.19	48.11
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査より

〈国語〉

本年度の学力・学習状況調査において国語の平均正答率は57%と、大阪府と比較して+5ポイント、全国と比較して+2.7ポイントと、大阪府平均、全国平均を上回った。

領域別に正答率を全国と比較し、詳細を見ていくと、「話すこと・聞くこと」については、1.4ポイント、「書くこと」については3.5ポイント、「読むこと」については1.9ポイント上回る結果となった。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、7.9ポイント上回る結果となった。

さらに評価の観点別では「知識・技能」で7.9ポイント、「思考・判断・表現」で2.4ポイント全国と比較して上回ることができた。

全ての項目で全国平均を上回っており、1、2年生の系統立てた学習計画の成果が出ていると考えられる。問題番号4(二)の、文章を見直し、修正した方がよいと考えた理由を書くという記述式の問題についても、全国平均と比較して11.1ポイント正答率が上回っていた。

〈数学〉

全国平均と比較すると、本校の平均正答率は55%で、大阪府平均を8ポイント、全国平均を6.7ポイント上回った。本校の領域別の平均正答率は、「数と式」の領域では、51.9%(府平均:+9.5、全国平均:+8.4)、「図形」の領域では、52.9%(府平均:+6.7、全国平均:+6.4)、「関数」の領域では、57.1%(府平均:+10.8、全国平均:+8.9)、「データの活用」の領域では、60.0%(府平均:+5.1、全国平均:+8.9)であり、すべての領域で、府平均・全国平均ともに上回った。観点別、問題形式についても、すべてで府平均・全国平均とともに上回ったが昨年度と比べて全体的に下回っている。生徒質問紙では、「文字式を用いた説明や图形の照明を読んで、かかれていることを理解することができますか」の項目において、肯定的な回答をした生徒の割合が75%で、全国平均を7.4ポイント上回った。本校で実施している習熟度別少人数授業では、一人ひとりに目を配りやすくしており、基礎的・基本的な学力の定着が図れたことが、今回の結果から見て取れる。しかし、全国平均を上回るもの、图形の領域の正答率が50%を少し上回っている程度であること、記述式の問題の正答率が50%を下回っていることが課題である。

○中学生チャレンジテスト(3年生)より

〈国語〉

本年度の大坂府チャレンジテストにおいて国語の平均点は70.4%と、大阪府と比較して6.2ポイント上回った。領域別に正答率を大阪府と比較し、詳細を見ていくと、「話すこと・聞くこと」については、1.6ポイント、「書くこと」については0.7ポイント、「読むこと」については2.3ポイント上回る結果となった。さらに評価の観点別では「知識・技能」で3.8ポイント、「思考・判断・表現」で4.6ポイント大阪府と比較して上回ることができた。また、無回答率は、大阪府平均と比較すると、2.6%下回っていた。全ての項目で大阪府平均を上回っており、1、2年生の系統立てた学習計画の成果が出ていると考えられる。「本文の内容をとらえ、筆者の考えを理解することができる」設問では、大阪府平均を11ポイント上回るなど、文と文の関係や文章の構成を考える授業展開を進めた結果が出たと考えられる。また、「自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さに注意して話すことができる」設問では、大阪府平均を14ポイント上回るなど、班活動や発表活動を多数取り入れ、自他の意見を開き比べる機会を設けた結果が出たと考えられる。

今後の課題としては、「文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解できている」設問では大阪府平均を1ポイント下回ったことであり、創作活動や発表活動のみならず、基本的な語彙力の向上や語句の使用場面を想定した学習活動を取り入れ、知識・技能を身につけさせる必要がある。

〈社会〉

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、社会の学校平均点は、大阪府の平均51.2点よりも9.2点高い、60.4点であった。

領域別に見た得点率では、地理的分野が大阪府の平均51.6点よりも9.3点高い、60.9点であり、歴史的分野が大阪府の平均50.8点よりも8.9点高い、59.7点であった。

今後の課題としては、歴史的分野の「古代」、「江戸時代」の正答率が低いことがデータとして出ているので、小テスト等を実施して改善を図る。

観点別に見た得点率でも、2観点とも大阪府の平均を上回った。思考・判断・表現の観点については大阪府との差が9.0点高く、授業時にたくさんの資料を提示し、考え・読み取る機会を充実させた成果が出ている。

問題形式別の得点率でも、全ての形式で大阪府平均を上回っており、記述の形式の得点が大阪府の平均18.1点よりも6.7点高い、24.8点であり、普段から授業用ノートに自分の意見を書かせたり、発表させたりしている成果が出ている。大阪府と比べて、無回答率が低いことも、普段から必ず自分の考えを書かせたり、わからないものは調べさせたりしている成果が出ている。

〈数学〉

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は61.0点で7.1点上回った。

「図形」の領域では、得点率が68.1%となり、大阪府平均と比較すると+5.6%上回り、基本的な図形の性質を理解し、面積、体積を求める技能は身についていると考える。その他の領域については「数と式」の領域で63.5%(府平均+6.3)、「関数」の領域で52.0%(府平均+8.5)、「データの活用」の領域で60.1%(府平均+8.5)と全領域において上回る結果となったが、「関数」の領域が最も低く、複合問題などでも多く取り扱われる分野もあるので、入試までにしっかりと取り組んでいきたい。

〈理科〉

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、理科の学校平均点は、大阪府の平均46.0よりも5.7点高い、51.7点であった。得点の人数分布を見ると、大阪府全体では25~49点に人数分布のピークがあるのに対し、東中学校の人数分布では65~74点あたりに多数分布していて、学校平均を引き上げている。また、25~39点と80~84点も人数分布が多く、ばらつく傾向が見られる。

領域別に見た平均点では、3領域とも大阪府の平均点を上回っており、領域の違いによる平均点に偏りは見られなかった。観点別に見た平均点でも、すべての観点が大阪府の平均点を上回っている。また、問題形式別の平均点でも、全ての形式で大阪府平均を上回っており、選択式や短答式の方が記述式の得点率がやや高かった。問題別で見ても、ほとんどの問題で正答率が大阪府の平均を上回っている。

令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

〈英語〉

本年度のチャレンジテストにおいて大阪府の平均が53.2点であったのに対し、本校は67.9点であり、大阪府平均より14.7ポイント上回る結果となった。学習指導要領の領域等において「聞くこと」の領域においては、3.2ポイント上回ることとなった。C-NETとの授業やリスニングテストの実施だけでなく、授業内で教員がクラスルームイングリッシュを使用することや、教科書本文のディクテーションを実施することで、高い「聞く力」が定着していると考えられる。「読むこと」の領域においては、4.9ポイント上回ることができた。一定の長さの英文を読み込むことを授業に取り入れ、LC(リテラチャーサークル)の手法を取り入れなどすることで、深い読解の力がついてきているという結果となった。「書くこと」の領域においては、6.6ポイント上回った。単元ごとの確認テストをはじめ定期テストでも英作文に取り組んでおり、C-NETを含む複数教員で添削することで基本的な「書く力」が定着しつつあると考えられる。また評価の観点においては、「知識・技能」の観点において7.8ポイント上回り、「思考・判断・表現」の観点において6.9ポイント上回るなど、どちらの技能も大阪府平均を大きく上回ることができた。

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査より

〈国語〉

今後の課題としては、「読むこと」の観点があげられる。問題番号3(二)の登場人物の設定の仕方を捉えるという短答式の問題のみ全国平均を1.5ポイント下回った。自分の考えを文章にするといった活動は得意な生徒が多い反面、文章を正確に読み解く力に課題があると考えられる。複雑な文章を読むことに抵抗がある生徒や外国籍の生徒もいるため、基本的な文章の要旨を押さえることが必要である。

〈数学〉

数学の学習を通して、言葉や式・グラフ・表などを適切に用いて問題を解決する力、根拠を明らかにし、筋道立てて自分の考えを説明する力をつけていくことは非常に大切なことである。生徒質問紙の、「数学の授業の内容はよくわかりますか」の項目において、肯定的な「当てはまる」「どちらかといふと当てはまる」と回答した生徒の割合が83.3%で、全国平均を13ポイント上回った。さらに全国平均を上回るよう、授業改善をしていく。また、文章から数量関係を正確に読み取る力を養っていくために、問題文をしっかりと読むことを意識させていく。生徒質問紙の、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用しようとしていますか」の項目において、肯定的な「当てはまる」「どちらかといふと当てはまる」と回答した生徒の割合が61.6%で、全国平均を3.7ポイント上回った。さらに数学の楽しさや優位性を考え、話し合い、発表するという言語活動の実践にも力を入れ、今後も習熟度別少人数授業を通して、授業内容の定着をより一層図りたい。今後は、より一層生徒が数学を理解しようとする学習意欲の向上や姿勢を維持しつつ、数学の楽しさに触れられるような授業づくりをしていきたい。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

〈国語〉

これまで取り組んできた読書に親しむ態度を養う活動の一つである、ビブリオバトルやポップ創作などを継続しつつ、成果を実感したICTを活用した表現活動や、生徒間の意見交流をさらに活発化させることで、「話す・聞く」「読む」「書く」領域の一定の水準を保つ。また、学習者用端末等を利用したドリルの活用など、学習習慣と漢字や語句、文法といった基礎学力の定着を図り、知識・技能の能力向上をめざす。

〈社会〉

各領域・単元・観点とも、大阪府の平均を上回ることができたが、歴史的分野の「古代」、「江戸時代」の正答率が低いことがデータとして出ているので、小テスト等を実施して改善を図る。

また、歴史的分野の「できごとの年代順の並べ替え」に関しても、正答率は大阪府と比べて低くはないが、受験問題を解くためには、必須の力になるので、小テストなどを実施することで、生徒の苦手意識をなくしていくように努める。

〈数学〉

チャレンジテストの結果から、習熟度別少人数授業により生徒の多くは授業内容を理解し、基礎的・基本的な内容は身についていると考えられる。しかし、「数式」の領域において昨年度より10.5ポイント下回り、全体としては府平均を上回っているとはいっても、問題から着目した、数量を読み取り式を作る、などの力を身に着けていく必要がある。

また、記述式の問題において、府平均を7.3ポイント上回ったものの、本校の得点率は27.6%と低い結果であった。基本的な数学の考え方を、文字などを使って説明する力を身に着けさせることに努めたい。また、入試に向けたさまざまな演習の中で、思考力・判断力・表現力の育成にも努めたい。

〈理科〉

本校の平均点が大阪府の平均点を上回っていることから、一定の学習の定着がはかれていると思われる。基礎的な知識の定着に向けて、1年生から小単元ごとに演習問題に取り組んだり、3年生で演習の時間を設定するなどの成果と考えられる。

問題形式別の平均点では、すべての項目で大阪府の平均を上回っているが、記述式の問題で正答率がやや低かった。記述式の問題で「無解答」の生徒の割合が大阪府の平均より10ポイント以上低いことから、答えがわかつても、正しい表現ができていないと考えられる。今後も、ICTを積極的に利用するなど、授業の中で学習内容や実験結果を文章化したり、対話・発表したりする機会を増やしていく必要がある。

得点の人数分布において下のピークとなった25~39点の枠に分布する生徒は、理科に対しての苦手意識を持っていることが予想され、興味関心をもって学習に取り組めるような授業の工夫をすると共に、より基礎基本が定着するよう、教材を工夫し、振り返りや確認テスト等で生徒が小単元ごとの目標達成を実感できる授業を開いていく必要があると考える。

令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

〈英語〉

大阪府平均を本校は14.7ポイント上回るという結果であったが、さらに実力を伸ばすために、授業内で基礎力をつけるために繰り返して学習ができるよう、今後の授業構成を考える必要がある。

特に「書くこと」では、単語テストなど授業中に実施できるものだけでなく、3学期に控えている入試問題を意識した英作文に挑戦するなどして、日常的に英語を書く機会を増やしていく。

特に自由度の高い記述問題では英文の完成度の個人差が大きくなる傾向があるため、英文作成が大きく負担になることのないよう、まずは短い文での解答ができるように授業内で挑戦させ、少しずつ書くことへと移行することで苦手意識を減らしていくように指導体制を整える。

また「聞くこと」においては、授業中の単語や本文の聞き取り、音読や小テスト、定期・実力テストでのリスニングだけにとどまらず、ディクテーションでの書き取りも行い、リエゾンを含んだ英文の音読も実施することで、英語の音声の特徴をとらえた聞き取りを進める。また、C-NETとの授業の中ではアウトプットの活動も取り入れることで、集中して聞き取ろうという意識を高める。

今年度は、LC(リテラチャーサークル)の手法を積極的に取り入れたことで、特に「読む力」に関して顕著な成長がみられた。「書く力」に関しても昨年度同様の高い結果が得られたが、個人差が大きいため、スローラーナーの生徒達に対しても継続して粘り強く指導していきたい。今後は自分たちで高校入試も含めた目標をもって学習を進め、ペア活動なども取り入れながら考えを深められる授業につなげられるよう、授業内容を工夫とともに少人数授業やチームティーチングでの授業を活用し、生徒の学力の向上につなげていきたい。

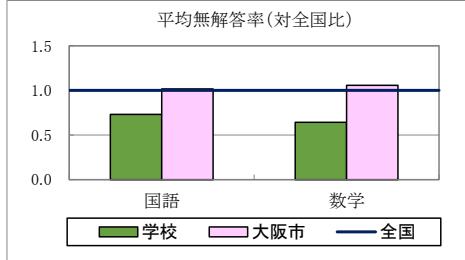
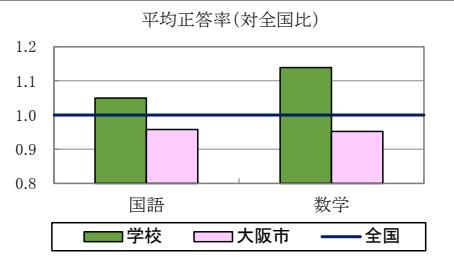
**令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	57	55
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

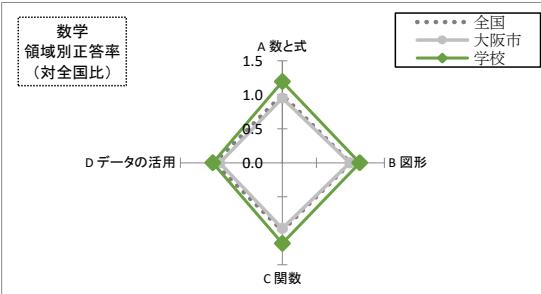
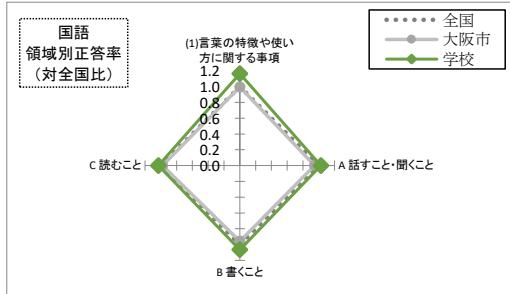
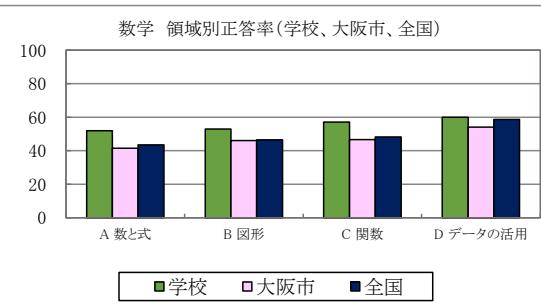
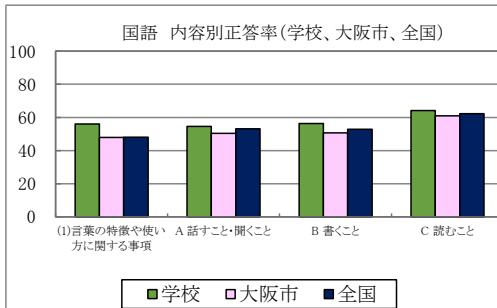
平均無解答率(%)	
国語	数学
4.9	6.8
6.8	11.2
6.7	10.6



【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	56.0	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	54.6	50.4	53.2
B 書くこと	5	56.3	50.6	52.8
C 読むこと	3	64.2	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	51.9	41.4	43.5
B 図形	4	52.9	46.1	46.5
C 関数	3	57.1	46.6	48.2
D データの活用	3	60.0	54.0	58.6

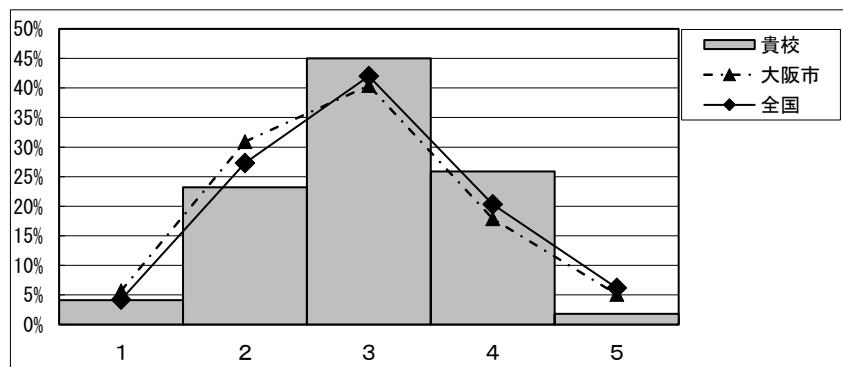
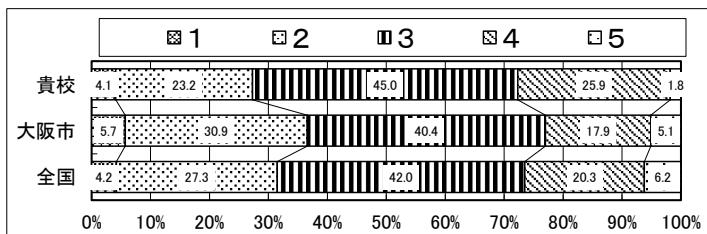


令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	497
大阪市	489
全国	503



令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

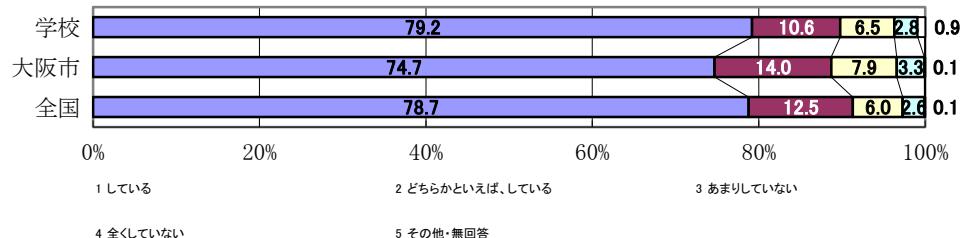
生徒質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

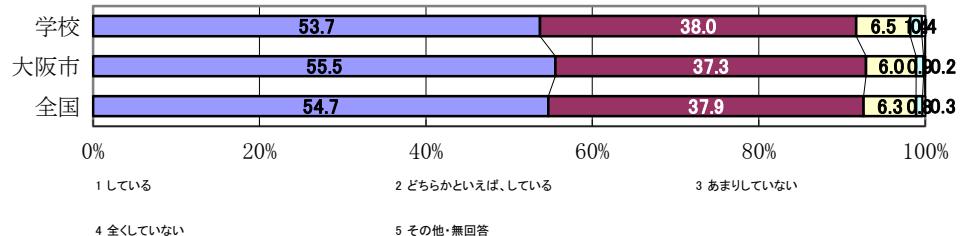
1

朝食を毎日食べていますか



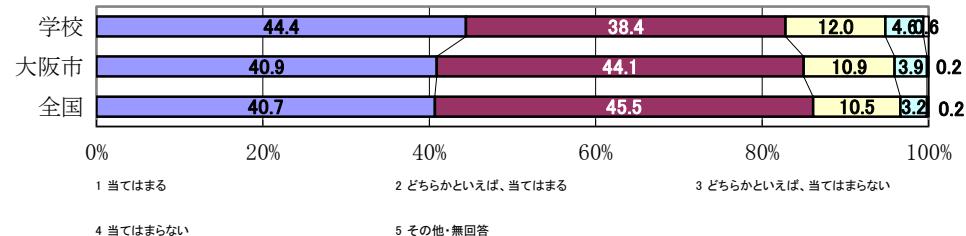
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



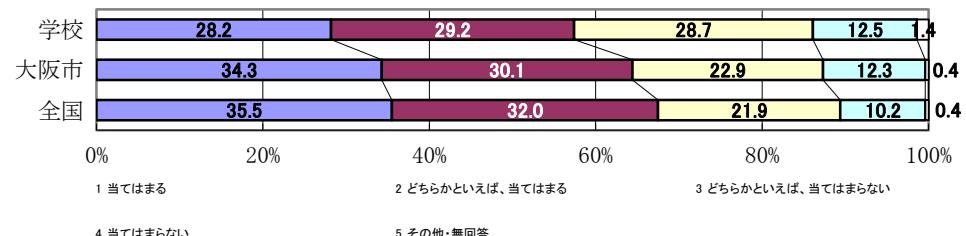
5

自分には、よいところがあると思いますか



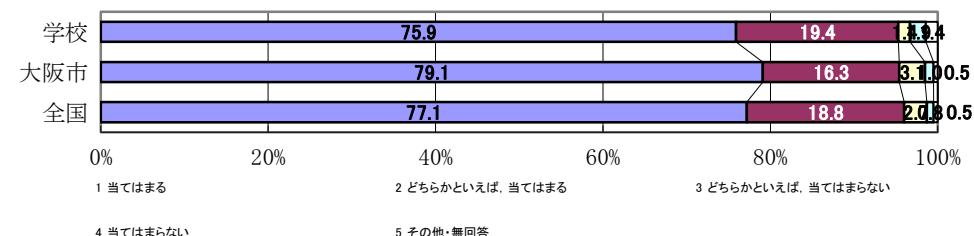
7

将来の夢や目標を持っていますか



9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

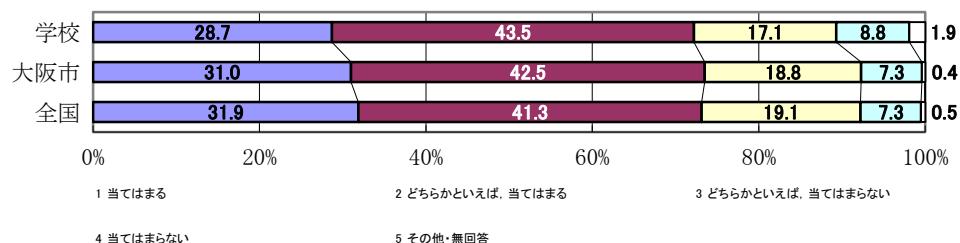
生徒質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

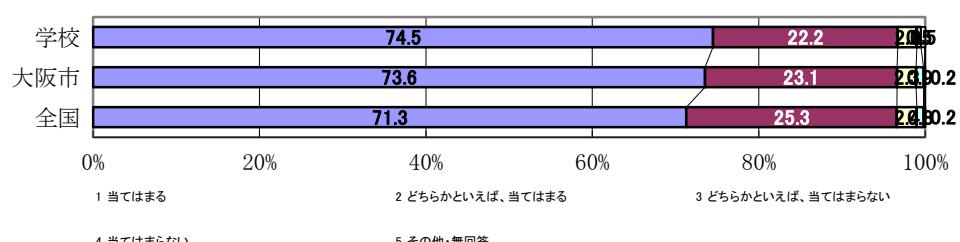
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



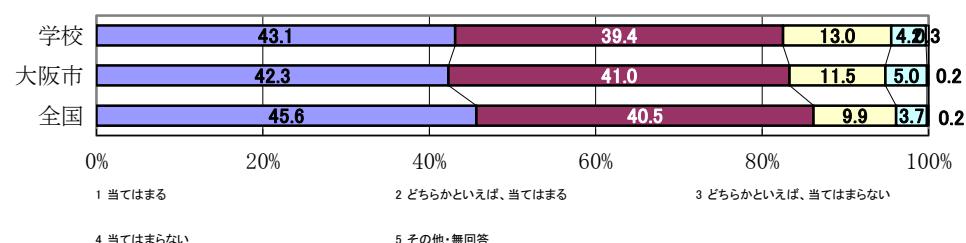
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



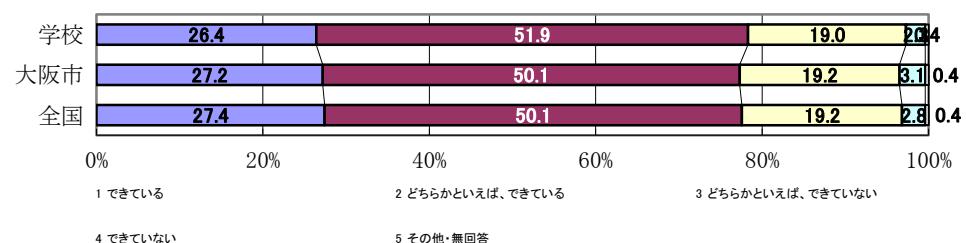
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



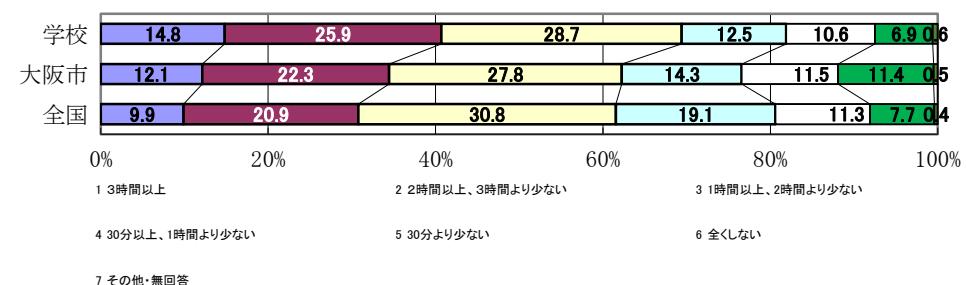
16

分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

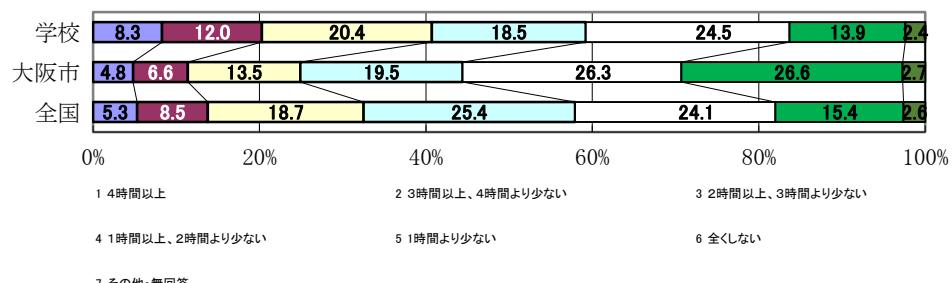
生徒質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

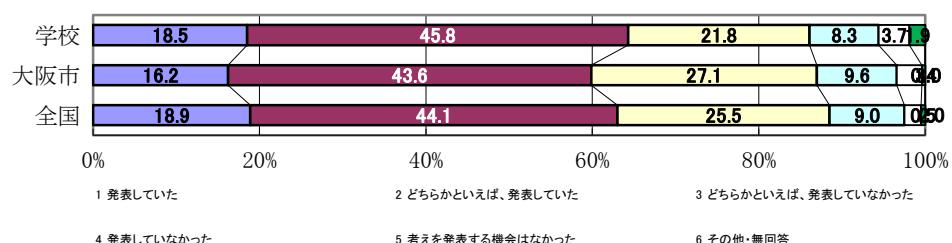
19

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



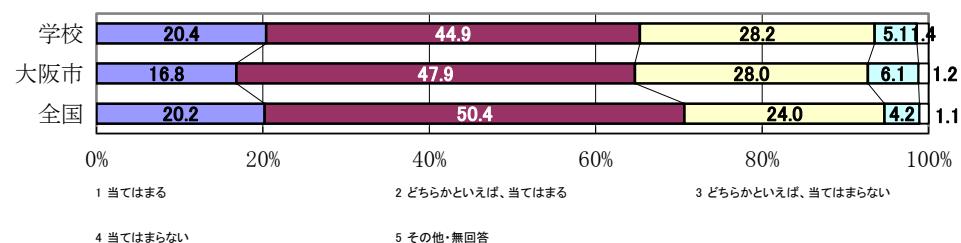
31

1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



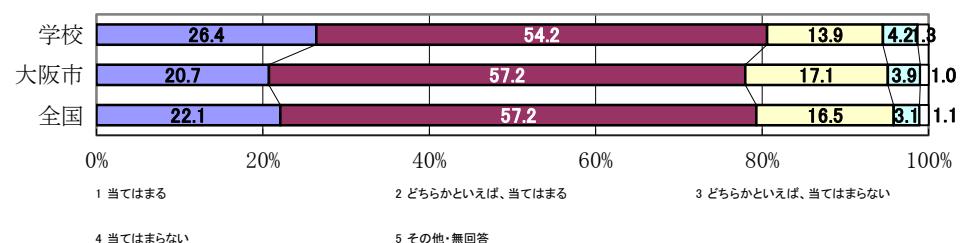
33

1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



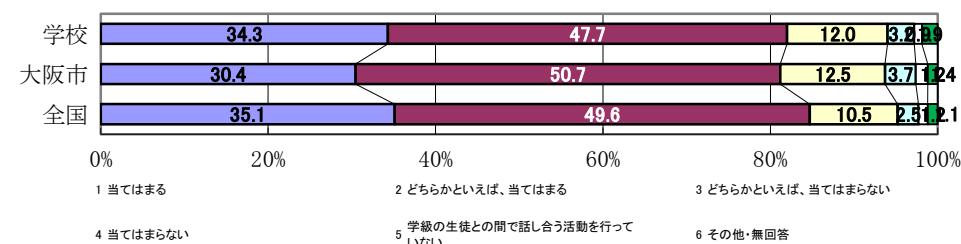
34

1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



35

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか



令和7年度 東中学校のあゆみ

—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

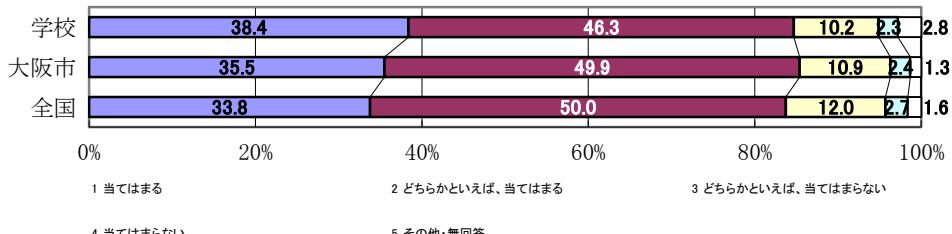
生徒質問より



質問番号
質問事項

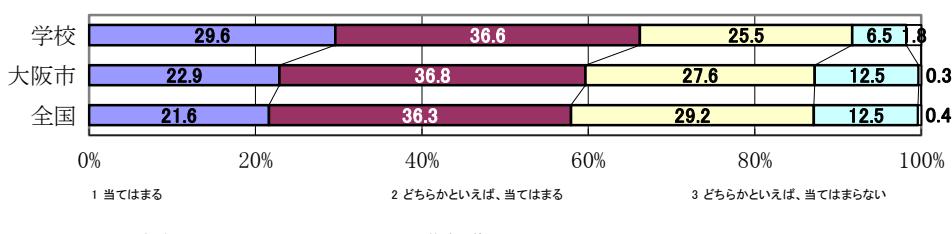
38

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



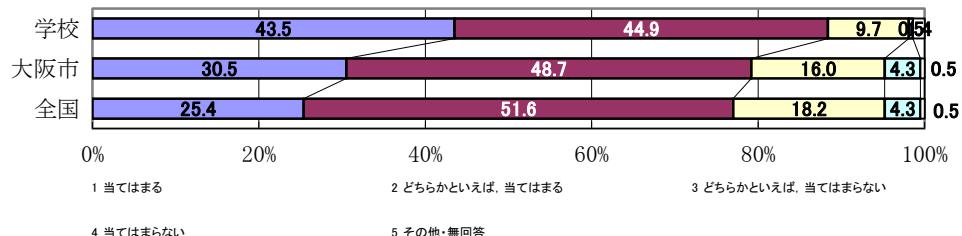
45

国語の勉強は好きですか



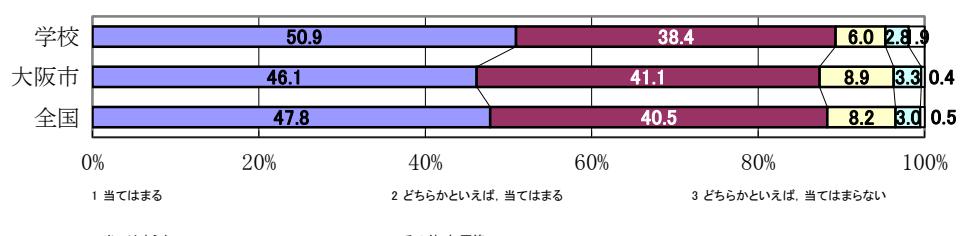
46

国語の授業の内容はよく分かりますか



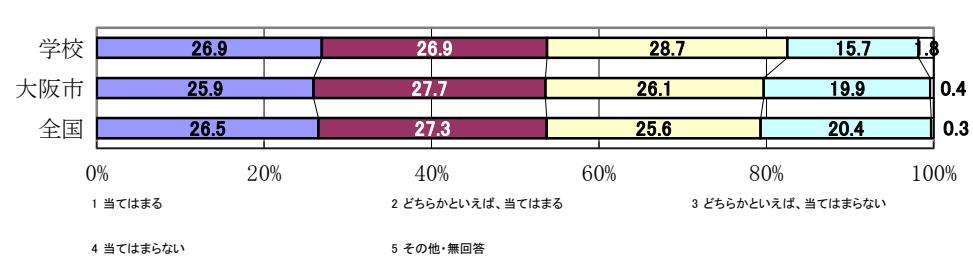
47

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いませんか



53

数学の勉強は好きですか



令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

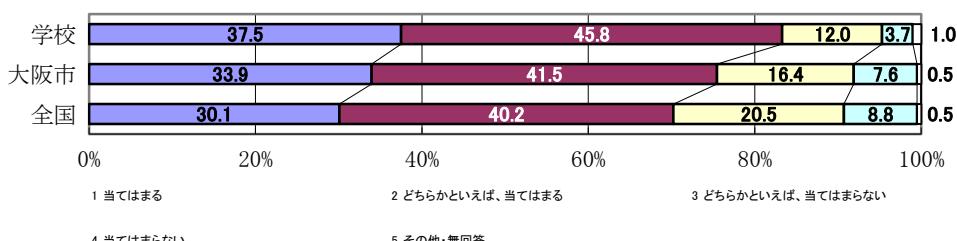
生徒質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

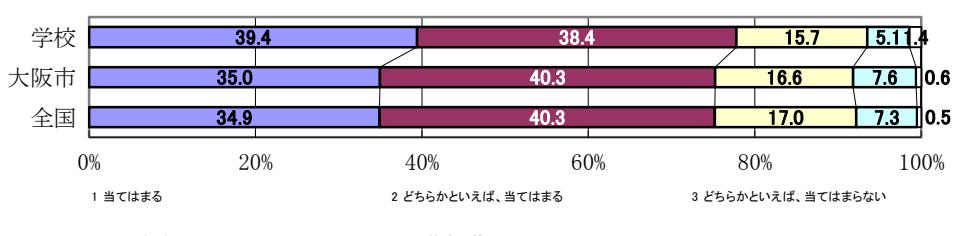
54

数学の授業の内容はよく分かりますか



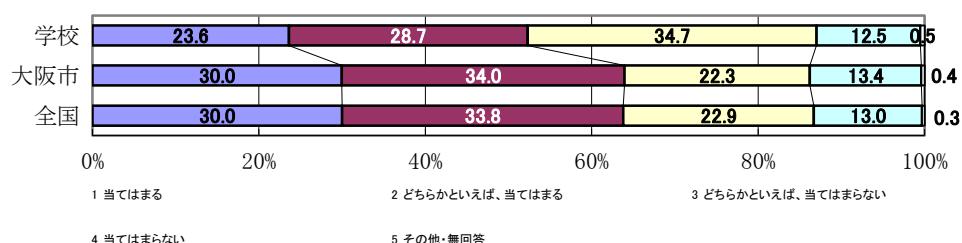
55

数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



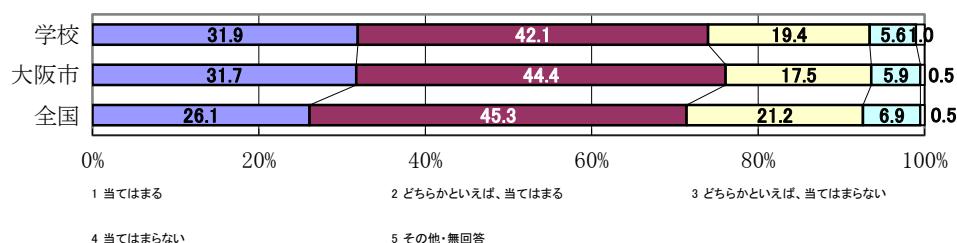
61

理科の勉強は好きですか



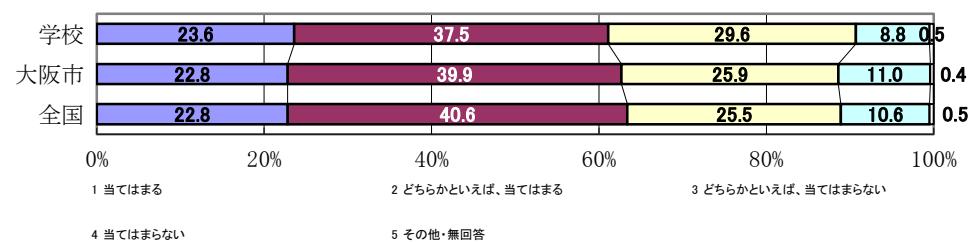
62

理科の授業の内容はよく分かりますか



63

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



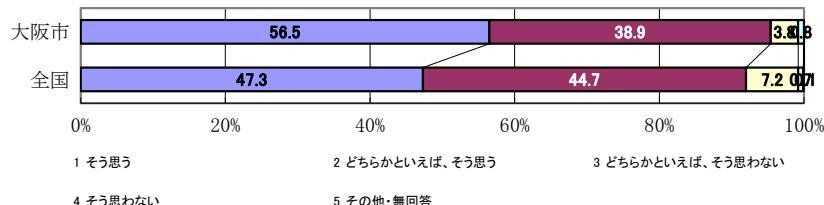
令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

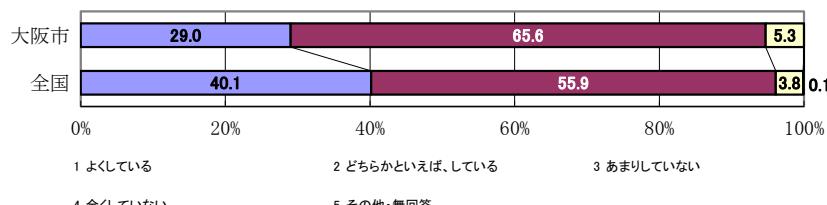
質問番号 質問事項
8 調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち込んでいると思いますか

学校 「そう思う」を選択



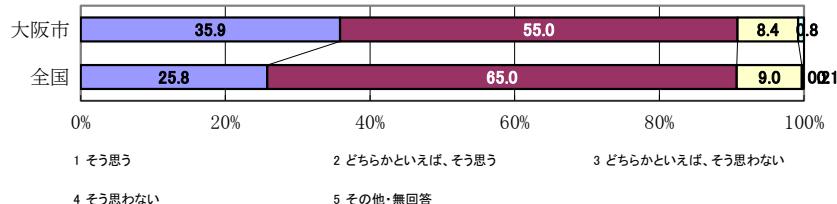
15 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

学校 「よくしている」を選択



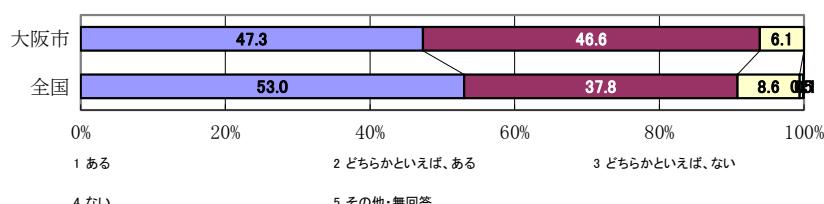
27 調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか
--

学校 「そう思う」を選択



56 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか

学校 「ある」を選択



58 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
--

学校 「週3回以上」を選択

